

基礎・基本の確実な定着を図る国語科学習の在り方

ア 基礎・基本の分析

「正しく伝え合う力」（情報を伝え合うために必要な知識・技能としての言語の力）「思い合う力」（生活の中で相手や目的意識，場面や状況意識をもって言語を運用する力）「自分らしさを認め合う力」（自他のよさを認め，学習を評価し価値付けていく力）の3側面から学習指導要領を分析した。そして，基礎・基本を領域ごとに「『豊かに伝え合う力』分析表」にまとめ，それらを2年間のまとまりの中で螺旋的・反復的に指導できるように「『豊かに伝え合う力』単元分析表」を作成した。（香小研小豆支部国語部会作成）

単元分析表をもとに，育てたい力を単元ごとにさらに具体化し，本校独自の「国語科年間学習指導計画」にまとめた。

平成15年度 第3学年国語科年間学習指導計画

月	単元名(言語活動)	主な学習活動	主に育てたい力
6	単元名 「星城小版 自然のかくし絵じてん」をつくらう 教材名 自然のかくし絵（「じてん」づくり） 選択 領域関連型 習熟度型少人数	新出漢字や語句の学習をし，学習計画を立てる。 文章のまとまりごとに，内容を正しく読み取る。 「じてん」を作成する。 A たくさんの例を挙げて「じてん」を作成する。 B 例文の書き方を振り返りながら「じてん」を作成する。 限界性の段落を付け加える。	<ul style="list-style-type: none"> 中心語句や中心文など段落の中で重要と位置づけられている部分をとらえて読む。（読正） 内容のまとまりを考え，「自然のかくし絵」の文章構成を整理して読む。（読正） 例を挙げて説明するよさを考えながら読む。（読思） 保護色で身を隠している生き物を調べて，自分が伝えたい内容に合った生き物を選んで書く。（書思） 限界性について書き足すよさについて考え，付け加える。（書思）

イ 言語活動分析

育てたい力を育成するためには，どの言語活動が最も有効なのかを探った。その際，既習事項と未習事項をきちんと把握し，言語活動の価値を，活動を通して教師の意図する育てたい力を育成するという方法的な価値と，言語活動そのものを成立させるために必要とされる能力的な価値の両面からとらえて分析を行った。

ウ 単元構成の工夫

（ア）単元構成の3タイプ

言語活動は，複数の領域が一体となっていることが多い。従って，基礎・基本の確実な定着を図るためには，言語活動のこの特性を生かしながら育てたい力を有機的に位置付けていくことが大切になる。そこで，単元構成のタイプを三つに分けて考えることにした。

領域統合型単元	主目標と異なる領域の活動を取り入れることで効果的な学習を期待する単元。
領域関連型単元	1単元の中で複数の領域の目標をもつ単元。
領域総合型単元	テーマに基づき，各領域の「思い合う力」を総合的に付けていけるような単元。

（イ）三つの場の設定

「やってみたいこと」と出会う場

育てたい力を必須とする伝え合う活動を意図的に組み入れる。（相手意識，目的意識の明確化）

言葉の力を使って課題を解決する場

伝え合う活動の中で育てたい力の有効性を見いだす。少人数学習の最も重要な場である。

学習した充実感を感じながら，次への課題が生まれる場

育てたい力を使って伝え合えた喜びを実感し，学習や生活につなげる。

（ウ）効果的な少人数学習の導入

児童の実態や教材，学習内容，学習活動などから，どの指導形態（習熟度型，興味・関心型，相互作用型）が，本単元で最も効果的なのかを探る。

エ 学習指導過程の工夫

（ア）言葉の力が生まれる場

本時で身に付けるべき基礎・基本の力を児童がとらえる場である。学習課題が単なる

活動課題（一次的課題）ではなく、一人一人の児童がもっている、または獲得していくべき、言葉の力が生まれてくるような課題（二次的課題）設定の場が重要である。

(イ) 言葉の力の有効性を味わう場

二次的課題解決に向けて、児童が主体的に活動する場である。交流場面を効果的に取り入れることが大切である。

(ウ) 言葉への新たな課題が生まれる場

二次的課題の観点を中心に、児童一人一人が客観的に自己を見つめていく場、互いに評価し合う場である。

国語科学習を支える常時活動

	月	火	水	木	金
8:15	書く活動	ふれあいタイム	全校朝会	ふれあいタイム	読書活動
~	メモ	(1・3・5年)	全校集会	(2・4・6年)	自由読書
	視写	音声表現活動		音声表現活動	読み聞かせなど
	聴写	(2・4・6年)		(1・3・5年)	
8:30	短作文など				

基礎・基本の確実な定着を図る算数科学習の在り方

(紙面の都合上省略)

(3) 研究の成果と課題

今年度実施（平成15年12月）した児童へのアンケートを昨年度（平成14年12月）・一昨年度（平成13年11月）と比較してみると、「授業がよく分かるようになった。」と答えた児童が、一昨年度が48.7%、昨年度が53.3%、今年度は58.0%と着実に増えてきている。また、半数以上の児童が、「学校での勉強が好きになった。」(53%)、「学習の仕方がよく分かる。」(57%)、「どんどん学習が進められる。」(51%)と答えている。

毎月実施している月例テストでも、ほとんどの学級で平均点が90点を超えている。特に5年生においては、遅れて進む児童の理解度が昨年度までと比較してずいぶん上がってきている。

朝の活動や朗読会など常時活動の充実を図ることで、授業以外の場でも力を付けることができることが分かった。継続的に取り組むことで、表現し合うことの楽しさを感じ、言葉に対する関心が高まった。

四国国語研究大会を開催し、香川県以外の先生方にも研究の成果を広めることができた。

算数科での習熟度型少人数学習を3学期に全学年で実施した。実施後、児童にアンケートをとってみると、ほとんどの児童が、「よく分かった。」「意欲的に学習に取り組めた。」「どんどん問題を解けて楽しかった。」と答えていた。しかし、まだまだ十分な取り組みができていないので、来年度は、研究のまとめとして算数科を中心に取り組んでいかなければならない。

(4) 研究成果の普及の方策

研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

平成15年 5月30日 香小研小豆支部国語部会で公開授業及び提案発表

平成15年 7月25日 香小研国語部会夏季研修会で提案発表

平成15年11月21日 本校で研究発表会を開催し、全学年公開授業及び成果等を発表

平成15年12月26日 県学校教育改善研修会に一般校として参加し、成果等を発表

平成16年 2月24日 学力向上フロンティアスクール小豆地区協議会で成果発表

研究成果普及のためのHP作成予定 平成15年度の研究成果等をHP上で公開予定

【新規校・継続校】	14年度からの継続校		
【学校規模】	7～12学級		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導	一部教科担任制
【研究教科】	国語	算数	
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有		

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

国語科の基礎・基本を「豊かに伝え合う力」の視点から分析し、育てたい力として、独自の「国語科年間学習指導計画」としてまとめ、少人数授業の実践に生かしている。

国語科・算数科を中心とした個に応じた指導のための指導形態の明確な類型化を図っている。

国語科・算数科を中心とした教科、教材、学習内容、学習活動に応じた適切な指導形態を選択し、少人数授業を実践している。

国語科・算数科を中心とした一人一人の学習の理解度や習熟度に応じた少人数授業を中心に授業実践している。